

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870201237
法人名	社会福祉法人 成寿会
事業所名	グループホーム関前
所在地	愛媛県今治市関前岡村甲 2 5 7 4 - 3
自己評価作成日	平成27年9月30日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成27年10月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

瀬戸内の自然に囲まれながら穏やかな生活をされています。自然とのふれあいを大切にし利用者様の経験等を活かしながら、他者との共有時間が過せる様に支援を行っています。御家族様と疎遠にならないように細やかな報告を行ったり、利用者様とそうした環境でできた果実をつかったジャムやシロップを召し上がってもらったりして、御家族がほんの小さなことも気安く何でも言える様な雰囲気作りに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

地域行事の弓祭りや文化祭、婦人会の人形劇等に利用者も参加できるよう支援している。秋祭りには、事業所の敷地に神輿と獅子舞が来てくれて、利用者は、健康祈願して獅子に頭を噛んでもらい、子供たちとも交流し、たいへん喜ばれた。見学者があればゆっくりと案内し、相談しやすい雰囲気作りに努め、事業所を身近に感じてもらえるよう努めている。

日記を書く方が、後で読み返して職員にその出来事について確認するような時もあるが、職員は、さりげなく話してご本人の気持ちが傷つかないように配慮している。他者の話し声や歌声等もうるさいと感じて、他者に向けてきつい言葉が出るような方もあるが、職員は仲に入り、話を聞いたり、距離をとる等してそれぞれが納得いくように支援している。おしほりたみをご自分の役目として率先して行ってくれる方には、職員からお礼を言っている。お花が好きな方には、行事の際には生けてもらえるようお願いしている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -
“ 愛媛県地域密着型サービス評価 ”

事業所名 グループホーム関前

(ユニット名) めばる

記入者(管理者)

氏名

國廣 佳子

評価完了日

H 27 年 9 月 30 日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 朝礼で理念を唱和し職員に共有した考えを持つ様になっている。毎月のカンファレンスの際には状態に応じ、理念を踏まえて検討していき、日々のケアにつなげている。	
			(外部評価) 事業所理念を「自然との触れ合いを大切に、楽しく安心できる生活」「個人の望みやこれまでの暮らしを尊重し、本人の力を活かす生活」とつくり、玄関等に掲示している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 行事・地域参加に声かけて頂く度に積極的に参加し、散歩の際には、声を掛けて頂くも訪問や立ち寄りまでには至っていない。地域の方から、GHの飾り用に生花をさしいれただけがある。	
			(外部評価) 地域行事の弓祭りや文化祭、婦人会の人形劇等に利用者も参加できるよう支援している。秋祭りには、事業所の敷地に神輿と獅子舞が来てくれて、利用者は、健康祈願して獅子に頭を噛んでもらい、子供たちとも交流し、たいへん喜ばれた。見学者があればゆっくりと案内し、相談しやすい雰囲気作りに努め、事業所を身近に感じてもらえるよう努めている。さらに、地域の方が事業所に来て活動するような機会を工夫して、事業所のことをより多くの方に知ってもらえるよう取り組んでほしい。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議以外では難しい面があるが、見学は自由に開放している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 現状報告や支援経過報告を取り入れ、どのように支援していき、どう変わっていったかなどの説明を行い、サービスの実際を分かって頂くようにし、その報告後、意見も聞かれるようになっている。</p> <p>(外部評価) 会議は、市の支所や社会福祉協議会の方、自治会長、民生委員、家族代表等が参加し、併設地域交流館で行っている。会議では毎回、事業所の現状・行事・活動・事故・支援経過報告を行っており、その後、サービス評価や研修等、その時期に応じて報告し、意見交換を行っている。前回の外部評価実施後には、家族代表以外のご家族にも会議参加を呼び掛けたが、ご都合もあり参加には至らなかったようだ。管理者は、今後、交流のある事業所と会議を通じて行き来し、会議内容についても工夫したいと話していた。</p>	<p>今後さらに、会議内容やメンバーを増やしていくような取組みに工夫してほしい。いろいろな立場の方に事業所を知ってもらって、理解・協力者を増やしてほしい。</p>
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議メンバーとして参加して頂いている。色々な面で相談にのって頂いている。</p> <p>(外部評価) 昨年より、今治市のグループホーム交流会に職員が交代で参加し、施設訪問やケアプランの意見交換等を行っている。交流会での情報は、職員間で共有して事業所の運営やケアに反映している。毎年、社会福祉協議会主催の七夕交流会やクリスマス会に参加して、地域の方々との交流している。市の担当者からは、感染症対策やワクチン接種についての情報を教えてもらっている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束は行っていないが、拘束しないケアを目標に、個々の状態に応じて検討したり研修を行なって、安全な生活が出来るように工夫し対応している。夜間は安全の為に玄関施錠している。</p> <p>(外部評価) 玄関は、外からは自動ドアで入れるようになっているが、内からは職員がボタンを押し、開錠するようになっている。利用者によっては、ご自分で操作して出かける方もある。入居前に住んでいた隣島に帰りたいと話す利用者には、一緒に港まで散歩してみることもある。車いすを使用する方の中には、安全ベルトを付けて対処したことがあったが、職員で話し合っって見守りを強化し、現在はベルトをせず支援している。利用者に命令口調になるような場面があれば、管理者や職員がその場で注意している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員研修の項目の中にも入れ研修を行うようにし、意識付けに努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 今までに必要な利用者様がおらず行っていない。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時にはしっかりと説明を行い又家族の意見も聞き対応している。特に緊急時の対応については、今治市へ搬送される場合もあることをしっかりと説明し理解を頂いている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族が面会に来られた際、アンケート用紙を配布し又、来園された際には直接意見を訊いたりしてサービスの向上に努めている。 (外部評価) 毎月の書類送付時、利用者個別に日々の生活の様子を写真を添えて報告している。ご家族の訪問時にお願ひするアンケートは、毎月、理事長が確認しており、ご家族からは感謝の言葉がほとんどのようだ。事業所で行う敬老会には、年々ご家族の参加が増えている。今年は13名程の参加があり、利用者と一緒にボランティアの日舞をみたり、おやつを食べながらお祝ひをした。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 日々の業務の中で出てくる意見を訊くようにし、カンファレンスで検討する機会を持つようにしている。 (外部評価) 2ヶ月に1回、事業所全体でカンファレンスを行っており、テーマを決めて研修も行っている。職員は、業務をスムーズに行うために提案やアイデアを出して取り組んでおり、共用スペースの清掃を勤務帯ごとの当番制にしたことで、ケアや業務がスムーズになっている。毎月1回、理事長、副理事長、人事担当者が事業所の様子を見に来ており、管理者は運営に関して相談等している。現在は、夜勤のあり方について職員から希望を出している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 賞与査定を行い業務に意欲のある職員に反映できるようにしている。月に一度経営者の視察があり、職場環境等の評価改善を行っている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内では2ヵ月に1回行っている。外部研修については、今治市グループホーム交流会に参加している。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 町内の社会福祉協議会主催の七夕交流会、クリスマス会等に参加させて戴き、地域との交流を図っている。	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前の訪問・面接を行い、ご本人の要望等を聞き出し、安心して入所して頂けるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご家族の心配事や不安を取り除けるよう、しっかりと意見を聞き説明を行うようにしている。入所後のご様子の電話連絡も行うようにしている。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>法人内で連携をとり適切なサービス利用に努めている。入所時には、事前にADLが分かるように“入所時施設サービス表”を作成し、職員全員に状態が把握できるようにしている。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>出来る力を発揮して頂けるように支援し、自然な流れでお手伝い出来るよう、全員の力で日々の生活が共有できるようにしている。</p>	
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>面会の際には常に声かけをし、状態や気付きの報告を行う。毎月「日々の生活の様子」を送付し疎遠にならないようにしている。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>今までのかかりつけ医をなるべく変更せず、馴染みの地域で暮らせるように支援している。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>2ヶ月に1回、家族旅行に行く方や盆・正月は、ご家族と一緒に過ごす方、お墓参りに一緒に行く方がいる。外出をあまり好まない方は、定期受診に出かけた際、昔なじみの方と顔を合わせるため、お話するような機会になっている。身内の方宛に「家に帰りたい」という心情をはがきを書く方がおり、ご家族の事情もあって出すことはできないが、ご本人がはがきを書くことは続けられるよう支援している事例がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ひとりひとりの個性を大切にし、生活リズムを崩さないように配慮している。その中で交流がもてるような場の提供を行っている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 常に相談や連絡をして頂くように声かけをし、速やかに法人内で連絡を取り合い、サービスの提供が出来るように対応を行っている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々生活されている中での小さな望みを見落とさず、その望みが叶えられるように、日々の色々な面での検討を行っている。 (外部評価) 職員は、入浴支援時や夜勤の時間には、利用者のお話をゆっくり聞く心がけている。普段あまり口に出さないようなことも話してくれるようで、話すことで利用者自身も気持ちが落ち着かれるようだ。介護記録には利用者の言葉や表情、思いとともに状況を具体的に記入し、それに対する職員の対応を記録するようになっている。	ケアマネジャーの交代を機に、利用者一人ずつ状態や意向を新しい様式に取りまとめているところである。介護記録についても、「職員が統一した意識で記録できるようにしたい」と話していた。得た情報を介護計画につなげて、利用者がその人らしく暮らし続けられるような支援を実践してほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 担当のケアマネジャーからの情報や本人・ご家族からの話を大切に聞くようにしている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の状態の変化を観察・記録して把握し、カンファレンスに役立てている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 各ユニット職員にてモニタリングとカンファレンスを1回/1月行っている、3ヶ月に回、ケアプランを見直し、スタッフからの意見を出し合い作成を行っている。又、カンファレンス議事録に話合った内容を記録し申し送りノートで、全員が把握できるようにしている。</p> <p>(外部評価) 利用者には日々のかかわりの中から暮らしの希望等を聞いており、ご家族には来訪時や電話で希望や意見を聞き取り、介護計画に反映している。毎月、利用者個々の担当職員がモニタリングを行い、毎月のカンファレンスで他職員と意見交換して、3ヶ月毎の見直しにつなげている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 日々の様子やケアプランの状況の記録を、個人ケースに記入している。又、関わった職員にしか分からない気づき等もバイタル表の備考欄に記入し、ケース記録に役立てるようにしている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 体調の急変時の受診・定期受診の対応等、ご家族の付き添いが困難な状況が多い為、事業所対応で行っている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地域のまつり・行事には積極的に参加し、交流を図っている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している</p>	<p>(自己評価) 通い慣れた“かかりつけ医”の受診が継続できるよう に 1回/1月受診を行ったり、訪問診療を受け、健康 管理に努めている。</p> <p>(外部評価) 協力医が3ヶ所あり、内、2つの協力医は、2週間ごとの往診があ る。必要時には、ご家族に往診日を伝えて医師と話す機会を持 てるよう支援している。ご家族から「薬を減らす等、薬を調整してほ しい」と希望があり、職員と医師で検討して、減薬した事例がある。 又、各かかりつけ医と連携して、利用者ごとに薬剤表をつくり、把握 して間違いのないよう支援している。毎月1回、訪問歯科が来てくれ ている。緊急時は、基本的に今治市に救急搬送されるが、広島県 から入居している方もあり、希望があれば、呉市に搬送できることも ご家族に伝えている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している</p>	<p>(自己評価) 訪問看護ステーション等は利用していないが、 かか りつけ医の看護師とは受診の際などに積極的に状態を 話し、アドバイスを頂いている。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 入院の際には病院まで必ず付き添い、生活の様子や個 人記録を送付したり、医療機関と連携するようにして いる。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 基本的にもとりは行っていないが、緊急時の体制・対 応については、ご家族に説明し地域の協力を得ながら 支援に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 利用契約時には利用者やご家族に対して、事業所に看護師を配 置しておらず、24時間の医療連携体制は整っていないことを伝え、 「終末期支援は行わない」ことを説明している。重度化や看取り支 援が必要になった場合は、法人施設や病院、他施設を紹介して移 行できるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時のマニュアルを作り通報訓練を行っている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署に協力を得て利用者と一緒に訓練を行っている。 (外部評価) 年2回、職員と利用者で避難訓練を行っている。運営推進会議時、自治会長から「夜間の訓練を行ってはどうか」と意見があり、今年3月に夜間の火災想定で避難訓練を行った。夜勤者2名は避難誘導について「大変だった」と話し、繰り返し訓練する必要性を感じたようだ。事業所にはスプリンクラーを設置しており、災害発生時に備えて、水や非常食も準備している。台風時には、窓に取り付けてある雨戸シャッターを全て閉めている。	事業所は海と山に囲まれており、土石流危険区域にも指定されている。災害時、地域の避難場所がやや遠いことも課題になっており、今後もさらに、利用者の状態等を踏まえた具体的な避難誘導策を検討し備えてほしい。火災以外にも、地震や津波想定での避難訓練を実施したり、地域との協力体制作りに向けても取り組んでほしい。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員研修の項目の中にも採り入れ、プライバシーの保護の大切さを自覚してもらい十分に配慮し対応するよう取り組んでいる。対応が気になったときは、その場で助言や注意を行うようにしている。 (外部評価) 日記を書く方が、後で読み返して職員にその出来事について確認するような時もあるが、職員は、さりげなく話してご本人の気持ちが傷つかないよう配慮している。他者の話し声や歌声等もうるさいと感じて、他者に向けてきつい言葉が出るような方もあるが、職員は仲に入り、話を聞いたり、距離をとる等してそれぞれが納得いくように支援している。おしぼりたたみをご自分の役目として率先して行ってくれる方には、職員からお礼を言っている。お花が好きな方には、行事の際には生けてもらえるようお願いしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日々の暮らしの中で、利用者と積極的に会話し、小さなことでも意思を尊重するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員本位のケアにならないよう意思を尊重し、その人らしさを大切に支援できるように努めている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 自立されている方はその人の意思にまかせ、身だしなみの確認のみ行う。ご自分での選択が困難な方は、出来る力を発揮して頂けるように支援している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 出来る方のみにお手伝いが偏らないように、ひとりひとりの出来る力を活かし、協力し合い達成感を味わって頂けるように支援している。 (外部評価) 食事は、法人の栄養士が立てた献立に沿って冷凍加工品や野菜等の食材が届き、事業所の台所で職員が調理している。利用者には食材の下ごしらえや味見をしてもらえよう、場面を作っている。職員は、味噌汁の濃さやご飯の分量等、それぞれの好みを聞きながら調整している。ドライブに出かけた際、珍しいものや懐かしい食材があれば買ってきて一品添えることもある。パン好きの利用者もあり、朝食は週2回、パン食にしている。調査訪問時の昼食では、職員は利用者の見守りや介助に専念し、交代で別の場所で持参したお弁当を食べていた。さらに、グループホームの食事支援の特長を活かして、「食事を楽しむ」という観点から支援に工夫できることはないか話し合ってみてはどうだろうか。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食の摂取量のチェックを行っている。摂取状態に応じた量や食事形態等の検討を行い、変更したりしている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 状態に応じた口内ケアの対応を行い、チェック表に記入し、確実に口腔ケアが行われるようにしている。又定期的な訪問歯科による口腔ケアを受け清潔保持に努めている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄状態が分かるよう記号で分け、表につけている。汚染確認が必要な方で、自立されている方には記号を変え、汚染確認の目安とし保清を行っている。	
			(外部評価) 排泄チェック表を確認し、早めの声かけや誘導を行い、日中はトイレで排泄できるよう支援している。頻繁に放尿があり、排泄チェック表で把握しきれない方については、「立ち上がったらトイレ」等、動きの傾向等を把握して支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 適切な運動と水分補給をしっかりと行うようにし、排便確認を行っている。便秘がちな方には、主治医の処方により服薬での排便コントロールを行っている。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 大まかには決まっているが、その日の状況や利用者の希望も取り入れて行っている。身体の状態に応じ足浴も取り入れている。	
			(外部評価) 毎日個々の希望を聞きながら、だいたい一日おきに入浴できるよう支援している。中には毎日入る方もある。浴槽は檜風呂で、窓から海を眺められる。同性介助を希望する方や「一番風呂は嫌」、「お気に入りの職員がいい」、「熱め目のお湯がいい」等、希望に沿いながら支援している。理事長来訪時には、利用者個々とお話しており、利用者から「脱衣所が夏は暑い」という声があり、扇風機を設置することにつながった。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 夕食後から就寝までの時間にゆとりを有ち、個々のペースに合わせ、テレビを視られたりお喋りをされたりと、リラックスされた時間を過ごされている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬剤表を各病院ごとにファイルし、また薬に変更があれば、その都度申し送り、情報を共有している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 楽しみながら、達成感を味わって頂けるように工夫し、役割が義務的にならないようにしている。その時の希望も取り入れ楽しみや気分転換に繋げている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日々の散歩や地域行事に参加している。また季節に応じてドライブにも出かけている。 (外部評価) 日常的に近辺を散歩できるよう支援している。調査訪問時には、職員が利用者の車いすを押して外に出かけて行く様子や、散歩から戻って来た利用者が庭のベンチでおしゃべりしているような様子が見られた。島のカフェに数名で出かけた。八百屋や週1回近所に来る移動販売車で買い物をする方もいる。毎年島で開催されるオーケストラコンサートを聞きに行ったり、社会福祉協議会でのビデオ上映会に出かけている。隣島の町並み見学等、ドライブにも出かけている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 少額のお小遣いをご家族様より契約の際に説明し預かり、預かり帳をつけ管理している。移動販売のパン屋さんでのパンの購入を行っている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 支援している。制限はしていない。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>カーテンやブラインドを使用し状態に応じ調整を行っている。共同のフロアーには、季節おりおりの作品や行事の写真を飾り楽しい場になるよう工夫している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>事業所は東西に2つのユニットがあり、北側には山の景色、南向きの居間や居室からは瀬戸内海を眺望できる。門扉を入ると金木犀が香り、玄関にはザクロの実の枝が活けてあった。敷地内には多数の果樹を植えており、収穫した果実はデザートやジャム、ジュースにして季節の味を皆で楽しんでいる。又、30本の桜の木があり、毎年春には皆でお花見をしている。居間は海側の強い日差しをロールスクリーンとレースカーテンで調整し、天窓からは柔らかな光が入っていた。廊下では、歌のお好きな方が歩きながら歌を口ずさみ、自由に過ごしている様子が見られた。その他、塗り絵やドリル等、得意なことをして過ごす方もいる。居間の一角には、畳スペースにベンチを置き、一休みできるようにしていた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>リビングに椅子を置き、自由に座って他者とお喋りが出来るようにしている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>持ち込み自由なので、利用者自身やご家族にも馴染みの物を持ってこられるように、積極的にお願ひしている。マイコップ、マイ箸などの持ち込みをしていただいている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>南向きの居室の窓からは海が見え、北向きの居室からは季節ごとに变化する庭の樹木や山の景色が見える。居室はフローリングで、檜の腰壁と障子窓があり、和風の趣きのある洋室になっている。現在は全室ベッドを使用しているが、希望で畳に布団を敷くこともできる。愛用の椅子を持ち込み使う方がいる。塗り絵の作品やご家族からのプレゼントを飾っている方もいる。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>建物はバリアフリーとし、廊下・トイレ・浴室等は手すりを取り付けている。</p>	